

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601643
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グループホーム北野 (ユニット名 うめ)
所在地	福岡県久留米市北野町中3201
自己評価作成日	令和6年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=4091601643-00&ServiceCd=3201Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和6年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コスモス街道沿いの施設で、季節を感じながら近所の北野天満宮まで歩いていく事が出来ます。隣接地には保育園もあり交流の時間を設ける行事も計画しています。一人ひとりの個性に合わせた支援を心掛けています。利用者様の思いに寄り添いながら個別ケアとして、利用者様のいきいたい場所や食べたい物等の支援を行い、充実した日々が送れるように支援しています。

職場内にもキッズルームを設けて子育てされている職員も安心して仕事が出来る環境にあります。法人の相談員が巡回し、利用者様・職員の悩みなどの聞き取りをし、より良い介護が出来る様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街に建つ落ち着いた雰囲気の中、利用者は自宅に居るような雰囲気で過ごしており、リビングの好みの椅子で、窓からコスモスの咲き誇る土手を往來する人を眺めたり、近くの園児の歌声が聞こえる中、のんびり過ごしたりしている。専任の調理師が在籍し、毎日の食事の時間が楽しみになるよう献立等にも工夫を凝らしている。季節に応じた外出や行事食、レクリエーションなど活発に実践されている。利用者一人ひとりの思いに沿った個別支援にも力を入れてあり、利用者は自分の出来る手伝い等で役割を持ち表情も明るい。職員は利用者と共に、得意な事、したい事などを把握し一緒に一日を楽しみ、安心して過ごせるよう支援に努めている。職員からは「職場環境が良好で働きやすい」との声が聞かれ、職員、利用者の笑顔が絶えず、利用者本位のケアが実践できている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア会議で理念を唱和し、実践出来るようにしています。地域の行事にも参加し、施設の行事へも地域の方へ参加を呼びかけ参加して頂いています。	理念を決める時も管理者等が提案し職員と話し合いのうえで決定している。地域の中で一つの家族として、職員は利用者が共に寄り添い、楽しめる生活の実現に向けて、理念を念頭に置き、利用者が笑顔で過ごしてもらえるように日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。地域の清掃に利用者様と参加したり、隣接する保育所の園児が来設され交流を行っています。	利用者が職員と一緒に地域の行事や掃除に参加し、地域住民とふれあいの場がある。日頃から散歩時に近隣の方々との会話を楽しんだり、近くの保育園児と手を振り、挨拶を交わすなど交流している。園児とのクリスマス交流会などの計画がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には民生員や包括支援センターの方に参加して頂き、認知症の理解を深めて頂けるよう意見交換を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご利用者やご家族に参加して頂き理解を深めています。	運営推進会議へ家族、利用者は交代で参加してもらい、様々な意見が聞けるように対応している。家族からの相談事などに対して市役所や包括支援センター等から助言があったり、自治会代表の方からの質問等には事業所が状況等を丁寧に説明し、事業所への理解等に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の介護保険課の方に来て頂いたり、書面にて報告を行っています。問題が出た場合、その都度連絡を取っています。	事故報告書の書き方や支援課題の有る事例について市担当者に相談しアドバイスを受け、日頃のケアに活かしている。空き情報の問い合わせ等に対応し情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議や日々のミーティングでケアの見直しを行ったり、内部研修や法人研修に参加し拘束をしないケアの実践を行っています。	法人全体研修で年2回身体拘束に関する研修があり本年度は動画と資料で学習している。法人全体の身体拘束委員会に職員が参加し、ケア会議等で伝達研修を行い職員全体で理解に努めている。言葉による拘束や相応しくない言動についても、その都度職員同士で確認しあい、どの様に対応すべきかを考えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議等でケアや対応の仕方の見直しを行ったり、グレーな行為が見られた場合に声掛けし注意している。又、内部研修や法人研修に参加し常に意識するようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で権利擁護の研修を行ったり、法人研修に参加し、理解出来るように努力しています。	法人の年間研修や事業所内のケア会議等で、職員は権利擁護等について、学習し理解に努めている。制度を利用している方は現在いないが、職員は問い合わせ等についても、管理者等に引継いだり、内容を確認した後で連絡説明できる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時に説明を行い、ご家族に納得して頂けるよう説明し、相談がある時には、時間を設けて話し合いを行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、ご家族の意見を頂くようにしています。常会や日常の会話の中で行きたい場所・食べたい物・困っている事・要望を伺い行事や希望食等に繋げています。	意見箱に投書は無く、家族の訪問時や電話などでの意見や要望に対応している。利用者には月1回の常会で堅苦しい会議でなく寄り添い、談話の中で一人ひとりの食べたいものや行きたい所を聞き、思いに沿うように計画し実践に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ノートで提案などは共有出来るようにしています。法人で相談員を設置し週2回訪問され、相談・アドバイスをさせて頂いています。	日常的に意見や提案を管理者等に伝えやすい人間関係が出来ている。職員等のそれぞれの立場での悩みや意見を法人の相談員がクッション的に受け止め、代表者や管理者へ繋ぎ、法人内で検討してもらえ、職員も居心地よく、働きやすい職場の環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の話を聞く時間を作ったり、研修への参加を促しています。勤務変更や希望休みも希望に添えるように調整を行い他の職員へも負担がないようにしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別関係なく偏見を排除し、行いません。思いを尊重し社会参加の権利の保証を行います。働きやすい環境作りを目指しています。	希望休暇以外にも子育て支援で時短勤務や休み、早退を取りやすい体制がある。職員はそれぞれの持つ洞察力、特技・趣味や経歴をいきいきと職場で発揮している。資格取得等や研修受講の際も勤務扱い等の配慮がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の勉強会や外部の研修に参加したり人権や啓発活動を行っています。ご利用者の人権を尊重し自己決定が出来るよう支援しています。	法人研修計画の中で、人権教育や啓発活動の研修等を職員は受講し、新人研修の中でも人権教育が実施されている。管理者は会議の際に職員へ人権に関する話をする機会があり、利用者の尊厳や意見を尊重して、楽しく笑顔で過ごしてもらえるように日常のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体やグループホームでの勉強会へ参加したり、外部への研修にも積極的な参加を促しています。研修参加者が周知することで知識や技術の向上を図っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流を図る為、市の研修会や外部研修に参加し、意識向上の機会を増やしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の希望や要望を傾聴し出来る限りの対応を行うように努めています。ご家族へも様子を報告したり、相談させて頂き良い関係を築いています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	2ヶ月に1回ご家族へ状況報告を行っています。面会時等にご家族の声にも傾聴し、要望・不安な事を聞き良い関係作りに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご希望のサービスを可能な限り提供するように努めています。ご家族の面会時に出来る限りコミュニケーションを図るよう努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の残存機能を活かして出来る事を行って頂いています。残存機能が活かせる生活を支援しています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回ご家族へ状況報告を送付したり、面会時にも近況報告を行い状況の共有を行っています。面会時に居室でゆっくりと会話して頂いたり、行事にもご家族へ参加して頂きご家族との時間も過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の人数制限等はありませんが、ご家族以外で友人や親戚の方の面会の受け入れも行っています。遠方の方からの電話での会話もご希望があれば行っています。ご利用者から要望があれば馴染みの場所へドライブに出掛けたり関係が途切れないように	利用者の要望で、馴染みのスーパーやパン屋等へ職員が同行し買物を楽しめるよう支援している。携帯電話で家族等と話す際に支援が必要な時は、職員が適時に対応している。友人や家族などが面会しやすい環境があり、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関わりが出来るように共有スペースやリビングの席の配置に気を付けています。顔馴染みの方ばかりにならないよう職員が間に入り会話を進めたりしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご希望があればご本人やご家族の相談や、再度申し込みを受け入れています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者とのコミュニケーションを大切にし、可能な限り希望を聞き入れるよう努めています。困難な場合も別の仕方等提案し出来る限り希望に近い物を提供出来る様努めています。	担当職員は日頃の生活状況等を把握して介護計画に反映するよう計画作成担当者とも連携をとるようにしている。球場へ野球観戦に行きたいと希望される方には、下肢筋力の強化を図る計画にするなど、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生まれ故郷や育った場所・環境等日常の会話に取り入れ、生活歴や馴染みの暮らしを把握しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者お一人おひとりが過ごしやすい場所で過ごして頂いたり、残存機能を職員で共有しています。コミュニケーションを図り心身の安定にも努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の希望を聞いたり、目標が達成出来る様に職員間で情報共有しています。又、かかりつけ医や看護師と連携し良い暮らしをして頂けるように計画を作成しています。	介護計画は、毎月のケア会議で報告し、日々ケアチェック表に実施状況を記入することで周知徹底されている。毎月のモニタリング、6ヶ月ごとの評価、1年ごとの見直しを行っている。退院時や状態変化時には随時計画の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々気付いた事や変化を記録し、職員間で共有しています。又、会議ではケアの実践後の報告や、見直し、議題に上げケアの統一が出来る様話し合う時間を作っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、ご利用者やご家族の希望を取り入れています。ご利用者の行きたい場所や食べたい物等個別ケアで実施しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの5類移行に伴い対策が緩和されてきた為、感染対策を行いながら地域の美化作業に参加したり、隣接する保育所との交流を行っています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人やご家族に決めて頂いています。往診のみではなくご本人に異常が見られる時は報告・連絡・相談を行い適切な医療を受けられるよう努めています。	本人、家族の希望により、利用開始前からの医療機関を継続したり、協力医からの訪問診療を受けたりしている。通院受診は家族にお願いしている。手紙を家族に持参してもらったり、職員から電話で報告するなどの対応を行い、受診結果を家族から聞くなど情報共有を図り、適切な医療の継続を支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定を行ったり、異常が早期発見出来る様努めています。又、ご利用者に異変を感じる時は小さな事でも看護師に報告し受診など必要な医療を受けられるよう努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師や看護師・ソーシャルワーカーと連携しご利用者の情報交換を行い、早期に退院出来る様努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に事業所で出来ることをご本人・ご家族へ説明し意向を確認しています。かかりつけ医を含めた異業種で連携し、支援しています。	利用開始時に看取りに関する指針に沿って説明をしている。医療機関に入院されるケースが多く事業所での看取りはない。希望があれば家族の宿泊や食事の提供等できる体制があり、職員への看取り研修を実施し、不安なくケアできるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に冷静に対応できるよう、通報の仕方等を掲示したり、救急引継ぎシートを作成し正確に救急隊へ伝えられるようにしています。又、看護師より職員に向けて勉強会も行っています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの元、昼・夜想定避難訓練の実施を行ったり、訓練後に反省会を行い適切な指導・アドバイスを頂いています。	消防署立会いの下、消火、通報、避難誘導訓練を2月・8月に利用者、職員で実施している。消防署より無駄な動きや夜間想定訓練で隣の施設からの応援職員の対応などのアドバイスを受けている。BCP(事業継続計画)があり今年度中の研修を計画している。3～4日分の食料等の備蓄がある。隣接する施設職員や地域住民の訓練参加協力に至っていない。	火災や自然災害が発生した場合の対応を、研修や訓練を通して習得することが望まれる。有事の際は人的支援は必要となるため、隣接する施設や地域住民の協力や訓練参加についても検討する機会を持つことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修に参加してご利用者に対する声掛けやケアに繋がっています。ご利用者の尊厳を傷付けない声掛け・ケアを念頭にケアを行うようにしています。	言葉使いに関して、人生の先輩としての尊厳をもって話すようケア会議で管理者から話をしている。排泄ケアの際の声掛けは、他の方に気づかれないように小さな声で対応するようにしている。職員用トイレ内に「職員としての心得」「不適切ケア」が掲示され常に意識してケアにあたっている。書類は外部者から見えないスタッフルームの戸棚に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご利用者が食べたい物・行きたい場所等を尋ね、思いや希望を言える環境作りを行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けています。趣味や得意な事等を行なって頂ける環境を作っています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類をご本人に選択して頂き洋服でおしゃれを楽しんで頂けるよう支援しています。又、訪問カットではご自身でヘアスタイルを伝えられる環境を作っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を取り入れ四季を感じて頂いています。副菜の盛り付け、ご飯のつぎ分け、配膳、台拭き等出来る範囲で手伝って頂いています。	常会で利用者の好みを聞き取り、食べたいものを献立に取り入れている。ゴーヤ、キュウリ、ピーマンなどの夏野菜を利用者と一緒に育て、収穫した野菜を食卓に載せ会話しながら食事を楽しまれている。利用者には、大根おろしやゴボウのさがき、盛り付け、台拭きなどできることを手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録しています。ご利用者の体調等に応じておかゆや刻みで提供しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や外出から帰設された際はうがい薬でうがいをして頂いています。磨き残しがないか確認し不十分な方は仕上げ磨きで対応する方もおられます。義歯は夜間洗浄剤を使い清潔保持を心掛けています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄状況の把握を行っています。 排泄パターンを把握し布パンツへの移行が出来るよう働きかけています。	利用者一人ひとりの細やかな排泄チェック表がある。排泄パターンに沿った声掛け誘導を実施している。リハビリパンツやパットを利用している方の負担軽減のためにトイレ誘導の時間やパットの大きさの変更等について職員間で連携を図り自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂いたり、運動量を増やしたり、腹部マッサージを行ったりしています。おやつ時には(週3回)カスピ海ヨーグルトを提供しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望のタイミングに合わせて入浴出来るように調整しています。入浴を希望されないご利用者には清拭にて対応しています。	週3回の頻度で午後から入浴支援をしている。希望があれば毎日や夜間の入浴も可能で、利用開始時は自宅での習慣で夜間の入浴を希望する方の要望に対応した事例がある。浴槽にはスライド式の手すりを設置しており、利用者の身体能力に合わせ固定し、安全に支援している。菖蒲湯やゆず湯の他にも入浴剤で季節感を味わってもらえるよう検討中である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠出来るよう日中に体操やレクリエーションで体を動かして頂いています。気分に合わせて居室やリビングで過ごされたり、不眠になってある方には傾聴する等対応しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイルを作り情報を共有出来るようにしています。処方された薬も日誌に記入し情報共有出来るようにしています。症状に変化があった場合は様子観察を行い記録を残し看護師に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事で役割を持って頂けるよう努めています。ご利用者のやりたい事や出来る事を行う時間を設けています。又、体操や脳トレ等楽しんで頂けるよう工夫しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者より要望があれば希望された行きたい場所へドライブや外食へ出掛けています。又、散歩へ出掛けたり季節を感じて頂ける様に外出行事の計画を立てています。ご家族と外出されたり状況に応じて支援しています。	事業所の前に地域の観光名所でもある「コスモス街道」があり日常的な散歩コースになっている。気分転換や五感刺激のため、季節ごとの花見や買い物、外食など定期的に実施している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出・外食希望時にはご家族よりお金を預かり職員と一緒に買い物へ出掛けたりしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話を掛けられたい時には、意向に沿って対応しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、整理整頓を心掛けています。季節の野菜や植物を育てたり、室内には季節を感じられる飾り付けを行っています。室温やテレビの音量にも配慮し、居心地よく過ごせる空間作りを行っています。	リビング兼食堂からはコスモス街道を往来する人々を眺めたり、隣の保育園児が園庭で遊ぶ姿が見られたりしている。対面式の台所からは調理の音や食欲をそそる匂いが漂い家庭的で生活感がある。ゆったり寛げるソファや椅子を設置しており利用者が思い思いに過ごせる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者や顔馴染みになられた方同士テーブル席を近くしたり、テーブル席以外にも椅子を置いてご利用者が好きな場所で過ごして頂けるよう工夫しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参して頂いたり、ペットの写真や飾り居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。	本人が使い慣れた家具や小物、趣味の絵画などを持参してもらい、できるだけ自宅と同じような環境で安心して暮らせるように配慮している。仏壇を持って来られている方もあり、その人らしい落ち着いた居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたんで頂いたり、副菜を盛り付けて頂いたり、行事の買い物に職員と一緒に出掛けられたり、ご利用者の能力に応じて出来ることを行っています。		